令和2年度事務事業評価シート

令和　年　月　日作成

事業番号	6286	担当課等	社会教育課図書館						
事務事業名	図書館資料整備事業								
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度 平成 12 年度

1　事業概要（令和2年度）

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営の充実	② 図書資料の充実
関連する個別計画					

SDGsとの関連									
	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ	6水・衛生	7ｴﾈﾙｷﾞｰ	8経済成長と雇用	9ｲﾝﾌﾗ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし

目的	多様化する町民のニーズに沿った図書館資料を提供し生涯学習に資する。
対象	町民及び図書館利用者
内容	豊富で幅広い図書、定期刊行物、視聴覚資料の収集し提供する。

2　実施結果

（単位　円）

		区分	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（見込）
コスト		事業費	5,841,492	6,352,336	6,147,000
	人件費	常勤職員	1,070,300	1,097,800	1,042,570
		会計年度任用職員等	294,720	303,930	0
		人件費合計	1,365,020	1,401,730	1,042,570
		総事業費	7,206,512	7,754,066	7,189,570
財源内訳		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他特定財源	934,000		
		一般財源	6,272,512	7,754,066	7,189,570
		財源合計	7,206,512	7,754,066	7,189,570

活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
人口1人あたりの資料購入費	年間資料購入費／人口	円	209.8	232.7	107.3

成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
人口1人あたりの貸出点数	年間貸出総点数／人口	点	5.5	5.1	3.6

3　令和元年度までの事業分析及び改善点

評　価　5段階とその理由を記入（5：高い　4：やや高い　3：普通　2：やや低い　1：低い）			
必　要　性	町が実施する必要があるのか	5	教育や文化の醸成は、行政が直接、公的責任のもとで行ったほうがよいと考える。
効　率　性 類　似　性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	図書館資料の収集によって、幅広く多様なニーズに応えることができたと考える。
有　効　性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	情報提供や文化的な生活を支えるものとして、図書館資料は有効であると考える。
公　平　性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	全町民を対象としており、乳幼児から高齢者まで幅広い層のニーズに沿った資料を選定、収集している。

令和元年度までの自己評価または改善点	新刊情報や人気ジャンル、リクエストの傾向により購入本等を選書している。

4　見直し及び改善

評価　4区分とその理由を記入（1：可能　2：どちらともいえない　3：不可能　9：既に実施済み）		
委託・指定管理導入の可能性	3	図書館は町直営により運営しており、資料の整備については、町が実施する必要があると考える。

令和2年度の見直し及び改善（実績または予定）	新型コロナウイルス感染症対策による休館や外出の自粛により、図書等の貸出数は大幅な減少が予想される。各種催し物も中止となったが、動画による「おはなし会」や「ブックトーク」を収録・配信し好評を得た。 貸出及びリクエスト状況等を踏まえ、需要の多い分野を中心に収集した。また、県内公共図書館との相互貸借や寄贈本も活用し、リクエストに応えた。
令和3年度以降の方向性	従来からの企画運営のほかに、新型コロナウイルス感染症対策として、新しい生活様式に沿った、利用者が自宅で受益できる「オンラインおはなしだっこ」のような業務が求められると考える。また、電子図書の研究も必要と考える。 図書館資料については、今後も町民のニーズを見極め、資料を収集し提供する。

5　一次評価（令和3年度以降の方向性に対する評価）

総合評価	継続（現状維持）	

6　財政・計画推進の視点からの所見（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

電子書籍等を含めた新たな蔵書・閲覧方法について、検討する必要がある。

7　二次評価（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

総合評価	継続（現状維持）	

令和2年度事務事業評価シート

令和　年　月　日作成

事業番号	6281		担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	ブックスタート・セカンドブック推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	9	項	7	目	3	事業開始年度	平成　15　年度	

1　事業概要（令和2年度）

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
ゆがわら2011プラン後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	Ⅰ 生涯学習の推進	4 生涯教育	(3) 図書館施設・運営の充実	④ 子どもたちに対するサービスの推進
関連する個別計画					

SDGsとの関連									
	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし

目的	図書と親しむきっかけを作り、学齢期の読書活動の基礎となる「家庭での読書」を定着させる。
対象	・4か月乳児及びその保護者（ブックスタート） ・小学校1年生及びその保護者（セカンドブック）
内容	ブックスタートでは、4か月児健康診査において、絵本の配布及び絵本の読み聞かせ等を実施している。セカンドブックでは、小学校入学時に、各児童が希望した図書を学校長が直接手渡し、また、ボランティアによる読み聞かせ等を実施している。

2　実施結果

（単位　円）

			区分	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（見込）
コスト		事業費		264,431	196,058	240,000
	人件費	常勤職員		241,304	199,600	175,030
		会計年度任用職員等				
		人件費合計		241,304	199,600	175,030
		総事業費		505,735	395,658	415,030
財源内訳		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他特定財源				
		一般財源		505,735	395,658	415,030
		財源合計		505,735	395,658	415,030

活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
ブックスタート配布率	配布者数/対象者数	%	100	100	100
セカンドブック配布率	配布者数/対象者数	%	100	100	100

成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
児童図書貸出点数	児童図書の利用状況	点	29,263	26,829	15,800

3 令和元年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	4か月児健康診査及び小学校入学の対象者は行政機関しか収集できない情報であるため、町が実施すべきと考える。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	少子化や活字離れ等の傾向が見られる中、親子の読み聞かせや読書へのきっかけを作った。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	図書に親しむきっかけ作りに加え、本を介した家庭内でのコミュニケーションの増進が図られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	小学校や保健センターと連携し、対象者を把握し実施した。転入児童(1年生)にも配布している。

令和元年度までの自己評価または改善点	健診の開催回数が2カ月に一度となったが、事業主管課とボランティアの協力のもと、事業を円滑に行うことができた。

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	4か月児健康診査及び小学校入学の対象者は行政機関しか収集できない情報であるため、町が実施する必要があると考える。

令和2年度の見直し及び改善(実績または予定)	ブックスタートは、実施回数が減ったことによる混乱はなかったが、新型コロナウイルス感染症対策の為、現場での読み聞かせができず、内容の簡単な説明に終わっているが、保護者には好評である。 セカンドブックでは、自ら選んだ本をもらう子どもたちが、喜んでいる様子が見られ、今後も読書に繋げていきたい。
令和3年度以降の方向性	家庭での読書の楽しさを実感できる環境を整えるため、事業を継続していく。

5 一次評価(令和3年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	

令和2年度事務事業評価シート

令和　年　月　日作成

事業番号	6290	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	子ども読書活動推進事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成　17　年度

1　事業概要（令和2年度）

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
ゆがわら2011プラン後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	Ⅰ 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営の充実	④ 子どもたちに対するサービスの推進
関連する個別計画	第三次湯河原町子ども読書活動推進計画				

SDGsとの関連									
	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし

目的	第三次湯河原町子ども読書活動推進計画(計画期間：平成29年4月～令和4年3月)に基づき、子どもの読書活動を総合的に推進する。
対象	おおむね0歳から18歳まで
内容	第三次湯河原町子ども書活動推進計画に基づき、ブックリストやたくさんよんだね手帳の配布、子ども読書まつりの開催等、子どもが本に接し読書に親しむための機会の提供と環境づくりを行う。

2　実施結果

（単位　円）

	区分		平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（見込）
コスト	事業費		41,472	35,990	59,000
	人件費	常勤職員	422,184		
		会計年度任用職員等			
		人件費合計	422,184	433,034	117,932
	総事業費		463,656	469,024	176,932
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源		463,656	469,024	176,932
	財源合計		463,656	469,024	176,932

活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
子ども読書まつり参加人数	主眼となる事業のため	人	17	47	50

成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
0歳から18歳までの利用者の貸出点数	本事業の対象年齢	点	14,278	12,869	11,600

3 令和元年度までの事業分析及び改善点

評 価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必 要 性	町が実施する必要があるのか	5	町全体における子どもの読書活動を推進することを目的としていることから、町が直接実施すべきと考える。
効 率 性 類 似 性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	ブックリストや読書手帳の配布、ブックトークやビブリオバトルの体験講座等を通じて、子どもの読書意欲を喚起した。
有 効 性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	学校図書館や読み聞かせボラティア等との連携のもと、子どもの読書環境の整備が進んでいると考える。
公 平 性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	幼児から中学生に対してのアプローチはできているが、高校生の読書推進については十分とは言えないため、アプローチの方法を検討していきたい。

令和元年度までの自己評価または改善点	小学校においてブックトークを実施し、読んだことのない本に興味を持ってもらい、貸出と読書に繋げたほか、学校司書によりブックリストが利用されるなど、学校図書館の活性化に連携協力することができた。また、「ビブリオバトル(書評合戦)」を開催したが、開催方法や対象者など工夫が必要と感じられた。

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	子ども読書に関わる機関の連携を行政が中心となり調整しており、また子ども読書活動推進協議会が事業の推進を担っているため、事業は町が実施する必要があると考える。

令和2年度の見直し及び改善(実績または予定)	新型コロナウイルス感染症対策による休館により、電話やメール、ファクシミリ予約による図書館資料の貸出を行った。また、動画によるおはなし会やブックトーク、わらべうたを配信することにより、本に接する機会を提供しつつ3密を回避し感染症対策とした。 引続き、第三次子ども読書推進計画を進めていく。
令和3年度以降の方向性	新しい生活様式に従い、オンラインを活用した業務の検討が必要と考える。 第三次湯河原町子ども読書活動推進計画の最終年となる為、第四次計画策定に着手し、策定後は計画に沿った活動を進める。

5 一次評価(令和3年度以降の方向性に対する評価)

総 合 評 価	継続(現状維持)	

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総 合 評 価	継続(現状維持)	

令和2年度事務事業評価シート

令和　年　月　日作成

事業番号	6286	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	図書館施設整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成　25　年度

1　事業概要（令和2年度）

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P131 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	Ⅰ 生涯学習の推進	4 生涯教育	(3) 図書館施設・運営の充実	① 図書館施設整備の推進
関連する個別計画					

SDGsとの関連									
	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ	6水・衛生	7ｴﾈﾙｷﾞｰ	8経済成長と雇用	9ｲﾝﾌﾗ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし

目的	建物及び附属設備の老朽箇所を改修・更新することにより安全性と利便性を確保し、町民及び利用者にとって安全・安心で使い易い図書館運営を行うこと
対象	町民及び図書館利用者
内容	【平成28年度】 誘導灯交換修繕、屋上建屋改修工事 【平成29年度】 消防設備改修工事 【平成30年度】 安全対策工事・放送設備等改修工事 【令和元年度】 展示パネル購入

2　実施結果

（単位　円）

	区分	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（見込）
コスト	事業費	4,600,800	2,649,348	0
	人件費 常勤職員	603,120	309,310	
	人件費 会計年度任用職員等			
	人件費 人件費合計	603,120	309,310	0
	総事業費	5,203,920	2,958,658	0
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他特定財源	4,600,000		
	一般財源	603,920	2,958,658	0
	財源合計	5,203,920	2,958,658	0

活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
利用者一人あたりに換算した事業費	事業費/利用者人数	円	97.0	62.2	60.0

成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
人口1人当たりの貸出点数	年間貸出総点数／人口	点	5.5	5.1	3.6

3　令和元年度までの事業分析及び改善点

評価　5段階とその理由を記入（5：高い　4：やや高い　3：普通　2：やや低い　1：低い）			
必要性	町が実施する必要があるのか	4	図書館は町直営により運営しているため、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	竣工から40年以上を経過しており、建物及び附属設備の老朽箇所について、優先順位を考慮して実施した。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3	優先順位を考慮した改修の実施により、建物及び附属設備の安全性及び利便性が高まった。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	3	建物及び附属設備の改修により、来館する町民及び利用者が安心して継続的に図書館を利用することができる。

令和元年度までの自己評価または改善点	図書館の開館を確保しながら建物及び附属設備の改修を実施するにあたり、町民及び図書館利用者への影響をなるべく避けるため、休館日を有効的に活用する等、施工日及び施工方法に配慮した。

4　見直し及び改善

評価　4区分とその理由を記入（1：可能　2：どちらともいえない　3：不可能　9：既に実施済み）		
委託・指定管理導入の可能性	3	図書館は町直営方式により管理・運営しているため、町が実施する必要があると考える。

令和2年度の見直し及び改善（実績または予定）	令和2年度は事業としての予算支出はないが、維持管理の上で雨漏りの修繕、防火扉の部品交換や調整、避難誘導灯のバッテリー交換、トイレ詰りの修繕のほか、ウインドウズ7のサポート終了による機器の入替を行い、安心して利用できる施設を目指した。
令和3年度以降の方向性	湯河原町公共施設個別施設計画において、施設の在り方を検討していく中で、建物及び附属設備の状態により、優先順位を考慮しながら、必要に応じて順次に修繕や改修を行っていく。

5　一次評価（令和3年度以降の方向性に対する評価）

総合評価	継続（現状維持）	

6　財政・計画推進の視点からの所見（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

公共施設個別施設計画のロードマップに基づいた施設のあり方の検討を進める必要がある。

7　二次評価（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

総合評価	継続（現状維持）	

図書館(施設整備事業)

令和2年度事務事業評価シート

令和　年　月　日作成

事業番号	11676	担当課等	社会教育課図書館							
事務事業名	新型コロナウイルス感染症対策事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	令和　2　年度

1　事業概要（令和2年度）

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
ゆがわら2011プラン後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	Ⅰ 生涯学習の推進	4 生涯教育	(1) 生涯学習推進体制の整備	③ 身近な公共施設の設備充実
関連する個別計画					

SDGsとの関連									
	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ｼﾞｪﾝﾀﾞｰ	6水・衛生	7ｴﾈﾙｷﾞｰ	8経済成長と雇用	9ｲﾝﾌﾗ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし

目的	町民の自主的な文化活動のため、安心して利用できる活動拠点として、新型コロナ感染症の対策が施された施設として整備する。
対象	町民及び図書館利用者
内容	感染の拡大を防ぐため、本の除菌機を設置、飛沫を防ぐアクリル板の設置、手指を消毒するためのアルコールの設置。

2　実施結果

（単位　円）

		区分	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（見込）
コスト		事業費			1,370,000
	人件費	常勤職員			117,932
		会計年度任用職員等			0
		人件費合計	0	0	117,932
		総事業費	0	0	1,487,932
財源内訳		国庫支出金			1,370,000
		県支出金			
		地方債			
		その他特定財源			
		一般財源	0	0	117,932
		財源合計	0	0	1,487,932

活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
年間貸出冊数	視聴覚資料を除いた冊数	冊	126,884	116,130	86,000

成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成30年度	令和元年度	目標値
除菌機による除菌冊数	視聴覚資料を除いた冊数	冊			35,000

3　令和元年度までの事業分析及び改善点

評　価　5段階とその理由を記入（5：高い　4：やや高い　3：普通　2：やや低い　1：低い）			
必　要　性	町が実施する必要があるのか	5	町直営であり、不特定多数の方が利用する施設であるため、町が実施する必要がある
効　率　性 類　似　性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	対策を講じることにより、感染の拡大を防止できる
有　効　性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	図書館を安心して利用できるため、感染症対策として有効であると考える
公　平　性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	来館者や利用者全てが受益できるため公平である

令和元年度までの自己評価または改　善　点	

4　見直し及び改善

評価　4区分とその理由を記入（1：可能　2：どちらともいえない　3：不可能　9：既に実施済み）		
委託・指定管理導入の可能性	3	感染症拡大防止の観点から、現状が望ましいと考える

令和2年度の見直し及び改善（実績または予定）	来館者は、手指の消毒やマスクの着用を自主的に行っており問題はない。除菌機の操作は職員のみとしており、視聴覚資料は人手によるふき取りを行っている。。
令和3年度以降の方向性	3密の回避と新しい生活様式に沿った対応が必要であると考える

5　一次評価（令和3年度以降の方向性に対する評価）

総 合 評 価	継続（現状維持）	

6　財政・計画推進の視点からの所見（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

特になし

7　二次評価（※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。）

総 合 評 価	継続（現状維持）	